2023（令和5）年度学校経営方針　　柘植中学校

【学校教育目標】

エンパワメントを最大限に引き出す学校づくり
～　継承・発展・創造の9年間の実現をめざして　～

※「エンパワメント」とは、広義には、「子どもが内なる可能性を発揮し、元気になるための教育」狭義には、「自分の暮らしを見つめ、自分をとりまく人々の願いを受けとめ、生活を高めていこうとする力」 と柘植中学校では定義しています。さらに、子どものエンパワメントを引き出すことが地域・保護者のエンパワメントにつながると考えます。
　子どもたちが、保護者・地域・学校に関わる全ての人と、相互に支え合う関係である学校づくりをめざします。

【めざす生徒像】

◎「自立」と「共生」をキーワードに、これからの時代を生き抜いていこうとする生徒

予測が困難とされる時代において、直面する課題に主体的に対応していく力（自立）を育むとともに、
他者との関わりの中で、共に支え合って新しい社会を創造していく力（共生）を育む。

〇自分の暮らしを見つめ、自分をとりまく人々の願いを受けとめ、生活を高めていこうとする生徒（エンパワメント）
〇教科の学力を高め、情報を正しく活用し、確かな判断力をもとに問題を解決していこうとする生徒（リテラシー）
〇多様なモデルとの出会いや体験活動を通して、自分の将来を思い描き、進路を選択しようとする生徒（ｷｬﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ）
〇暮らしの交流を通して、なかまとの絆を深めようとする生徒（なかまづくり・学級集団づくり）

※本年度の学校教育目標（三つの側面と一つの土台）達成の力点を以下に示しました。

【学校教育目標を達成する力点と、その重点項目（学校マニフェスト）】

（1）第一の側面「エンパワメントの力」にかかわって

…自分の暮らしを見つめ、自分をとりまく人々の願いを受けとめ、生活を高めていこうとする力の育成

① 生活綴り方による一枚文集の作成を通して、自分の暮らしに向きあい、なかまの姿に目を向ける子どもの育成をめざす。

②人権・部落問題学習で学んだことを、自分の暮らしや家族、なかまとの関係や自分の将来と結びつけて考え、あらゆる差別の解消をめざして取り組む意欲と実践力を育てる。

② 今まで言いにくかった自分のことを、友だちやクラスの中で言えるようになったという実感を持つことで、自己肯定感を高めることに努める。

（2）第二の側面 「リテラシーの力」にかかわって

…教科の学力を高め、情報を正しく活用し、確かな判断力をもとに問題を解決していく力の育成

④各授業で「ふりかえり」を意識したタイムマネジメントや、教科における言語活動を充実させることで、主体的対話的で深い学びをめざした授業づくりに取り組み、粘り強く学ぶ意欲・態度の育成に努める。

★各授業において、だれ一人取り残さない授業づくりをめざす。

ア）「**授業で自分の考えを持ち、**」と感じる生徒８０％をめざす。

イ）「毎日の家庭学習で目標時間を達成することができた」生徒７５％をめざす。

（１学期の家庭学習目標時間は、１・２年 90 分。３年 90 分以上とする）

☆「特別な支援」が必要な生徒について、個に応じた教育計画をたて、きめ細やかな指導の充実に努める。

☆学年の実力テストにおいて、経済的・文化的に厳しい環境の中で暮らす子どもたちが、２５０点満点中６５点以上（全教科１３点以上）を目標にし、進路を選択できるよう努める。

(3)第三の側面 「キャリアデザインの力」にかかわって

… 多様な人生モデル、職業モデルとの出会いや体験活動を通して、自分なりの生活や将来を思いえがいた進路を選択する力の育成

⑤キャリアデザインの取組と人権・部落問題学習の結合を図る。

ア）キャリアデザインの小中の連続性を意識した中１での取組の充実に努める。（目標値９０%）

イ）中２の「職業体験学習」において、「自分の生活課題を意識してとりくめた」と語れる生徒９０%をめざす。

ウ）中３時に「今の自分が目指す将来のために、この進路に決めた」とクラスで語れる生徒９０%をめざす。

(4)第四の側面 「土台」として…「なかまづくり・学級集団づくり」

⑥一枚文集を読み合い、暮らしの交流を通して互いを知り合い、一人ひとりの居場所づくりに努める。

⑦なかまの気持ちを考え、その気持ちに自分の経験や考えを重ねて返したり、発言したりすることができる子どもの育成。

【特色ある教育】

〇学校・家庭・地域の協働の子育て」の視点より

（１）子どもの『居場所づくり』を進めるとともに、保護者への情報発信に努める。

ア）一人ひとりの子どもたちや集団の姿が見える「一枚文集」を週一回・年間<u>３５号以上</u>発行する。

（２）地域の一員としての自覚や誇りを具体的な理由を示して言える子どもの育成をめざす。

ア）「人権を尊重するまちづくり」を目指して、中学生としての発信ができる子どもの育成を目指す。

イ）地域を大事に支えている人々との出会いや交流の機会を設けるとともに、自分の地域を誇れる子どもの育成をめざす。

〇「人権が大事にされる学校づくりの実現」をめざして（小中連携）

（１）柘植小との連携をより一層深め、ともに取組をすすめる。

ア）小中管理職連絡会や人権同和教育推進委員・教研推進委員連絡会を定期的に開催する。

イ）小中合同研修会をはじめ、教科も含めた授業参観の充実を図る。

（２）「人権教育カリキュラム」の検証を通して、その精度を高めるよう努める。

<u>※特に「子どもにつけたい力を明示すること」を重要視する。</u>

【学校経営に係る留意事項】

「エンパワメントを最大限に引き出す学校づくり」に取り組むにあたって、教職員一人ひとりの参画意識の高揚と連帯感あふれる職場づくりに取り組む。

（１）教職員は、協力・協働のとりくみを通して『チーム柘植中』の共創に努める。

〇何でも言い合える、風通しのよい職場環境づくりに努める。

〇教員間の同僚性を高め、互いに学び合う職員集団をめざす。

★「校内研修」の充実をめざす。（<u>202３年度：人権教育研究指定校事業にむけた研修）</u>

（２）心身ともに健康で職務を遂行するため、超過勤務の縮減に努める。

ア）「過重労働報告」の取組を通じて、教職員一人ひとりの勤務実態の把握に努め、総勤務時間の縮減をめざす。

イ）「年休」「特休」等の取得も含め、教職員が互いにカバーし合える体制・雰囲気づくりに努める。

ウ）週１回の「全員定時退校日」を設け、その実行に努める。

エ）各学期に安全衛生委員会を開催し、業務の効率化に向け、整理・見直しを図る。

※時間外在校等時間、月45時間、年360時間を超える職員０人。会議は60分以内に終了する９０%目標。

（３）信頼される学校・教職員であり続けるため、コンプライアンスを意識し、職務を遂行する。